

研修レポート 6月

県立広島大学 志水慈子

CEPE の授業も残り僅かになりました。メキシコは相変わらず暑い日が続いています。本研修もあと1か月ばかりになりましたが残りも気を引き締めて勉学に励みたいと思います。

メキシコの衛生事情

日本と比較するとやはり衛生的ではない点が多くあると思いました。

・トイレ

トイレは便器が無いこと、詰まって流れなくなっていることは非常によくあります。トイレットペーパーは高級な店や百貨店などはもちろんありますが、場所によってはなかったり有料だったりすることもあり、殆どの場合流せないで隣のバケツに入れます。トイレの使用も公営、民営問わず基本的に5~10ペソ(30円~60円程度)かかります。日本ではトイレの後、手を水洗いして終わりの人が多いですが、メキシコでは必ずハンドソープで入念に洗っているのは驚きでした。因みに石鹸と流水で手を洗淨した場合、手洗い前と比較して15秒間の洗淨で10分の1、30秒間で100分の1に菌数が減少するという結果も出ており、日本でもメキシコ人に見習って石鹸手洗い習慣が広がってほしいです。

メキシコの便器なしトイレになれるころには、トイレで空気椅子ができるくらいに、大腿四頭筋やハムストリングス、大殿筋が鍛えられているはずです。

・レストランや食事処

開店前や閉店後に大量の洗剤で床を泡だらけにしてモップで洗い流している姿をよく見ます。タコス屋でも皿洗いをなくすためにビニールをかけて使用し、交換するなど衛生面の工夫がありました。露店でもビニール手袋をして食材を触る時と金銭を触る時とで分けたり、アルコール消毒をしたりしている店もありました。

また、特に若い女性は食事前には手を洗いに行ったり抗バクテリアジェルを手にすりこんだりして衛生面に気を使っている人が多かったです。ストラップ型のジェルが市販されていて、かばんにつけている人もよく見ました。

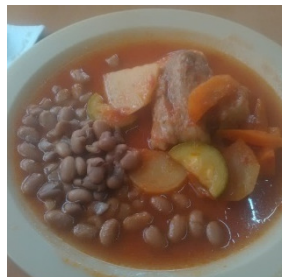
但しサラダに虫が混入したり、スープにプラスチック片が混入したりと何度か異物混入に遭遇したほか、食事後の腹痛も経験したのでまだまだ改善点はあるようです。

今月のメキシコ料理

⑮ コミーダ・コリーダ

メキシコ人のお昼ご飯といえばこちら！お昼に重きを置くメキシコ人ならではの、簡単に言えばお手頃価格のコース料理です。前菜のスープに始まり、パスタかライス、肉や

魚のメインディッシュ、果物の飲み物とゼリーやケーキなどの1口デザートとパンが順番に出てきます。何種類もの中から選んでいくのでスペイン語能力がある程度ないとオーダーできないのが難点ですが、道端の至る所で目にします。



⑩ソパ・デ・リマ



ユカタン半島発祥のライムが特徴的なスープで、夏でもアツアツが欲しくなるのはこのさっぱりした味のおかげでしょう。鶏肉と細かく切った野菜を煮込み、ハーブと塩コショウとライムで味付けします。短冊状に切ったトルティーヤをいれることも。写真は大家さんと一緒に作ったものです。上には赤タマネギの凄く辛いピクルスがトッピングされています。

⑪カヘタ



ヤギのミルクから作られる褐色のキャラメルのような液体で、パンに付けたり菓子類にも使われます。味は濃厚なキャラメルといった感じで、スーパーではカヘタの加工品であるキャンディーや、薄いせんべいに挟んだものなどが売られ、簡単に手に入ります。煮詰めたケマーダ、アルコールが入ったエンピナーダ、バニラ味にするバイニージャなど何種類があります。広島県と友好提携を締結している、グアナファト発祥の甘党にはたまらないコクのあるお菓子です！

今月のメキシコ観光地

⑮ 革命記念塔



1910年にポリフィリオ・ディアス大統領が立法宮殿を作るために建築を始めたものの、革命と内戦でその工事は中止されました。革命後、建設途中の建物を解体するのではなく革命の記念塔にすることを決め、メキシコ人の建築家カルロス・オブregon・サンタシリアによって新たに設計しなおされ完成に至りました。彫刻は独立、改革法、農業法、労働者法を示すほか、当時大きな影響力を与えたという革命者の霊廟にもなっています。約60mからの眺望は絶景で、さらに夜間はライトアップしているので幻想的な雰囲気醸します。